

建築物名称	(仮称)DPL新富士Ⅱ新築工事
受付日	平成30年10月26日
建物所在地	富士市厚原1699-1
構造規模等	鉄筋コンクリート造／地上4階／延床面積99,135.55平方メートル／新築
建物用途区分	事務所、工場
建築主	大和ハウス工業株式会社 東京本店 取締役常務執行役員 出倉和人
設計者	株式会社安藤・間一級建築士事務所 北岡正也
工事完了予定日	平成32年4月30日

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)DPL新富士 II 新築工事	階数	地上4F
建設地	静岡県富士市厚原1699-1	構造	RC造
用途地域	準工業地域、防火指定なし	平均居住人員	580 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2018年10月1日
敷地面積	44,162 m ²	作成者	株式会社安藤・間
建築面積	24,992 m ²	確認日	
延床面積	86,596 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆ 100%超☆☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 77%
③上記+②以外の 77%
④上記+ 77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。		その他 0
Q1 室内環境 事務所部分について、F☆☆☆☆の建材を採用し、室内環境に配慮した設計としている。	Q2 サービス性能 事務所部分について、十分な執務スペース、天井高を確保し、快適な執務空間としている。また、建物を免震構造とし、内部設備保護を図るなど、建物のサービス性能に十分に配慮した設計としている。	Q3 室外環境(敷地内) 標準的な配慮を行っている。
LR1 エネルギー BPI _m =0.71、BEI _m =0.52とし、建物の省エネルギー性能に配慮した設計としている。	LR2 資源・マテリアル 躯体材料や躯体材料以外にリサイクル材を採用し、使用材料の化学物質の排出にも配慮している。また、ノンフロン断熱材を採用するなど、資源やマテリアル項目について十分な配慮を行っている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率77%とし、その他の項目についても標準的な配慮を行っている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)DPL新富士II 新築工事	BEE	1.6	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [*] /満点		取組み度		評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3	/5			ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.6	/5			ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.7	/5			がんばろう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5			がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目								
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。										
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点				3.3				
	■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)	Q-1	2	2.1	2.2	①	外皮性能			
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	屋光利用設備			
							3.2	3.2.1	③	屋光制御
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④				躯体材料の耐用年数
							2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
		2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔						
2.2.5	④			空調・給排水配管の更新必要間隔						
		2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔						
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3			1			⑤	生物環境の保全と創出		
		3	3.2			⑥	敷地内温熱環境の向上			
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)	LR-1	1				⑦	建物外皮の熱負荷抑制			
⑦BPI _m =0.71 ⑨BEI _m =0.52		2	3	4.1	4.2	⑧	自然エネルギー利用			
							⑨	設備システムの高効率化		
								⑩	モニタリング	
⑩	運用管理体制									
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)	LR-2	1	1.1			⑪	節水			
⑫躯体にフライッシュセメントを採用 ⑬ビニル床材、吸音材、再生クラッシュランを使用 ⑭OAフロアを採用 ⑮化学物質の排出に配慮している ⑯ノンフロン断熱材を採用	2	2.1	2.1.1	2.1.2	2.1.3	⑪	雨水利用システム導入の有無			
							2.1.1	⑫	雑排水等利用システム導入の有無	
									2.1.2	⑫
	2.1.3	⑫	既存建築躯体等の継続使用							
			2.1.4	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用					
	2.1.5	⑫			躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					
			2.1.6	⑫	持続可能な森林から産出された木材					
	3	3.1			3.2	3.2.1	⑬	部材の再利用可能性向上への取組み		
			3.2.2	⑬				有害物質を含まない材料の使用		
	3.2.3	⑬			消火剤					
							断熱材			
						冷媒				
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3	1				⑭	地球温暖化への配慮			
⑭ライフサイクルCO ₂ 排出率77%	2	2.2				⑮	温熱環境悪化の改善			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点				3.6				
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性			
	⑯免震構造を採用 ⑰耐震クラスA					⑰	免震・制振性能			
							2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
										2.4.2
							2.4.3	⑰	電気設備	
									2.4.4	⑰
2.4.5	⑰	通信・情報設備								
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点				2.7				
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画			
	⑲階高にゆとりを持たせている ⑲壁長さ比率0.040	3	3.1	3.1.1	3.1.2	⑲	階高のゆとり			
							⑲	空間の形状・自由さ		
■室外環境(敷地内)対策 (⑳地域性・アメニティへの配慮)	Q-3	3	3.1			⑲	地域性への配慮、快適性の向上			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点				2.7				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1			⑳	生物環境の保全と創出			
		2	3	3.2	⑳	㉑	まちなみ景観への配慮			
							㉒	㉒	敷地内温熱環境の向上	
■敷地外環境対策 (㉓温熱環境悪化の改善)	LR-3	2	2.2			㉓	温熱環境悪化の改善			